

アンケート調査概要

【目的】 共生社会の実現に向けた効果的な取組等を検討するための現状把握

【調査対象者】 駅頭など街頭での聞き取り調査・オンラインでのパネル調査（回答者数1,326人）

【調査時期】 令和6年8月～9月

【主なアンケート項目】

- ・ 周囲に援助や配慮を求めやすくするために必要なこと
- ・ ヘルプマークの認知度
- ・ 援助や配慮を受けやすい空間について（空間があった方がよいか、空間にあった方がよい工夫）

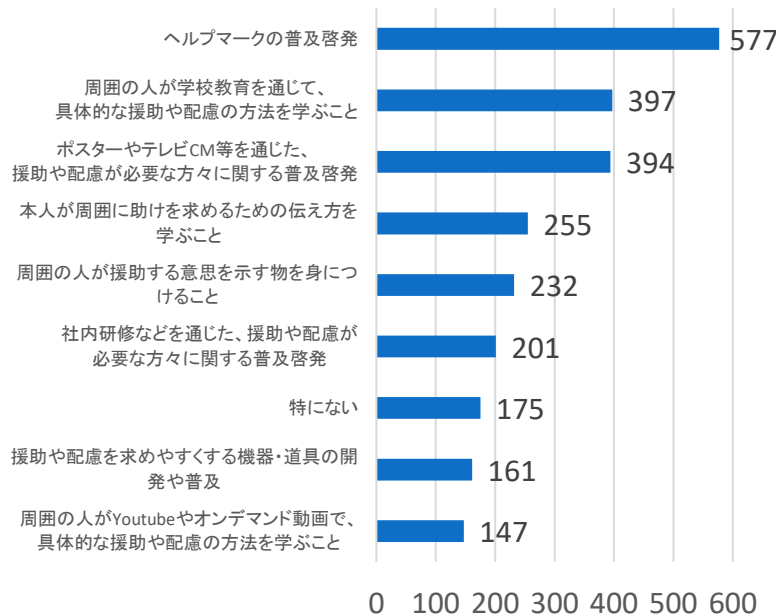
ヘルプマークとは
外見からはわからなくても、援助や配慮が必要な方が周囲の方に援助等を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成したマークです。



調査結果①

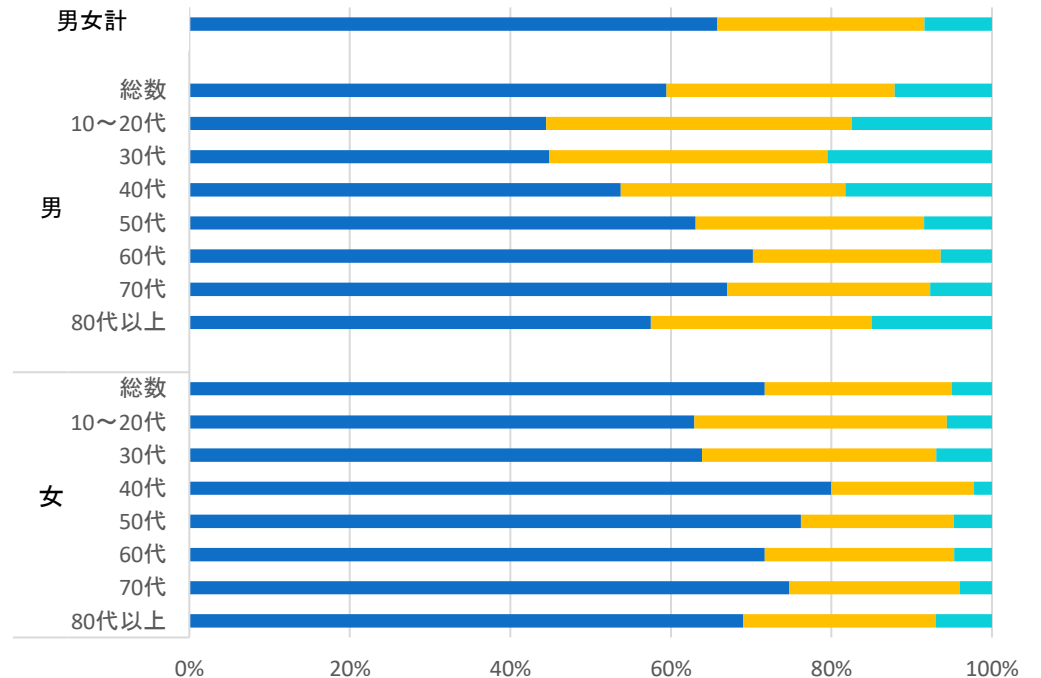
（１）周囲に援助や配慮を求めやすくするために必要なこと

（複数回答） n=1,326



（２）ヘルプマークの認知度（性別・年齢階級別）

n=1,318（性別不明8名除く）

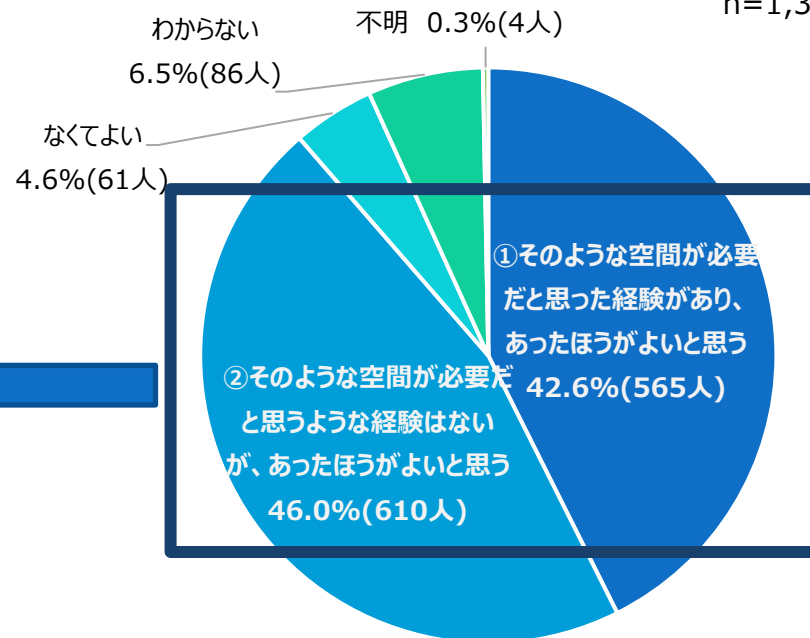


■意味も含めて知っている ■見たことや聞いたことはあるが、詳しい意味は知らない ■まったく知らない

(3) 援助や配慮を受けやすい空間※はあった方がよいか

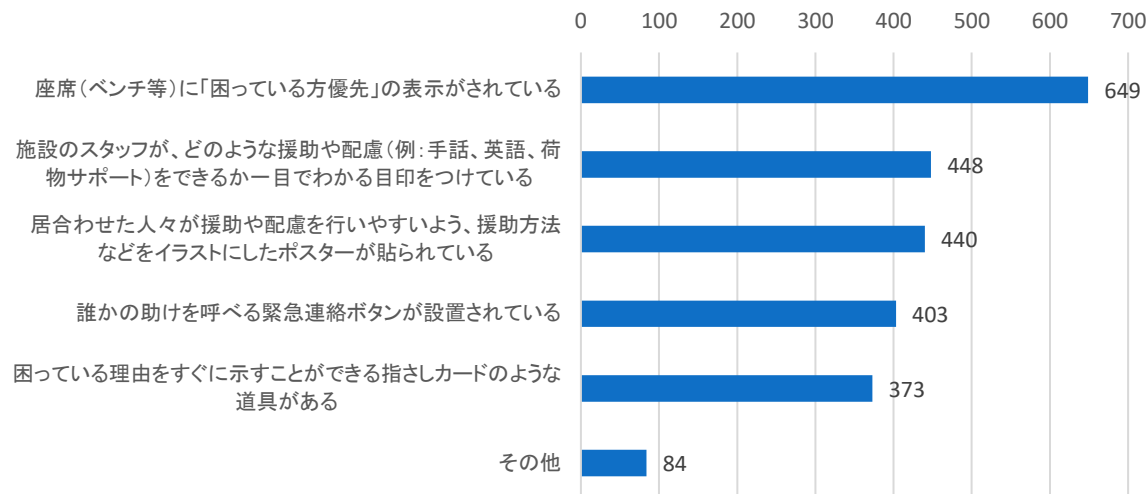
※公共交通機関における優先席スペース設置、市役所の誰でも休憩室 等

n=1,326



※①と②を合わせて1,175人

援助や配慮を受けやすい空間にあった方がよい工夫（複数回答） n=1,175



実証実験概要

【目的】令和6年8月～9月に実施したアンケート調査結果を踏まえ、効果的と考えられる取組の有効性を検証

【調査対象者】東京都主催イベント「みみカレッジ」来場者255名（速報値）　うち、アンケート回答者　122名
支援しますマーク着用協力者25名（スタッフ、来場者）

【調査時期】令和6年11月23日（土曜日）

【実証実験内容】①イベント会場内に「支援しますマーク」を着用した協力者を配置し、効果を検証

②休憩スペースやベンチに「困っている方優先」表示を掲示し、効果を検証

支援しますマーク



困っている方優先表示



困っている方優先



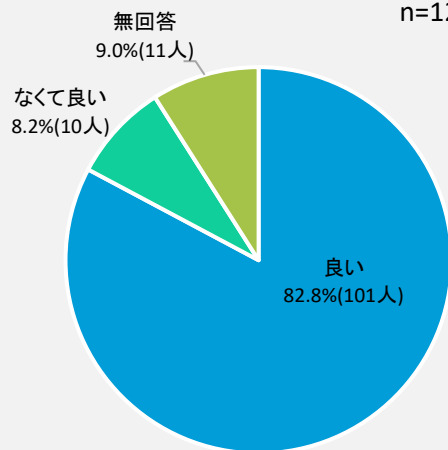
助け合いのしるし
ヘルプマーク



イベント来場者アンケート

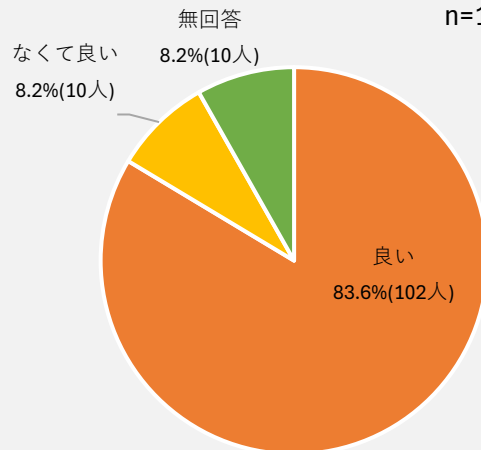
「困っている方優先」の表示について
どう思うか

n=122



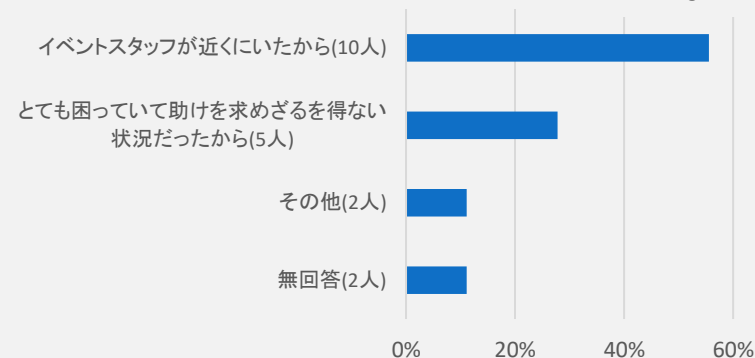
「困っている方優先」の表示が
他の場所にもあったらよいか

n=122



イベントに参加し、周囲に助けを求めた理由
(複数回答)

n=18



※なお、選択肢のうち、「相手側から声をかけてくれたから」、「(近くに援助や支援等を促すポスター等があり)助けを求めやすい雰囲気だったから」、「『支援しますマーク』を着けた人がいたから」については、回答がなかった

協力者アンケート

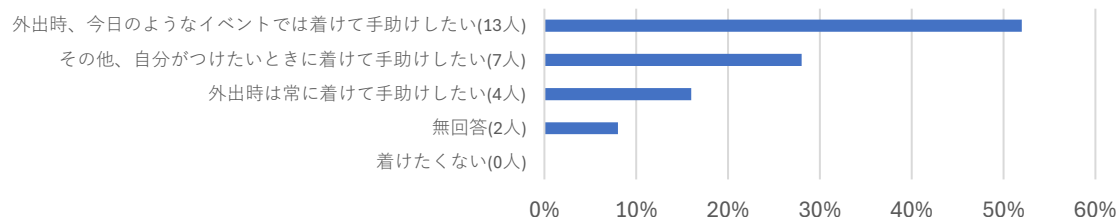
支援しますマークを着けてみた印象

n=25

- 支援したいという気持ちになり、周囲に気を配るような意識を持った。
- 困っている人に声かけしやすくなった。互いに声かけしやすくなると思う。
- 「お助けします」とのひとりと認識してもらえ、マークがない時より気軽に声をかけてくださる方が多かった印象
- もっと多くの人に広まればよいと思った。

街中でも着けて支援する意思を示したいか (複数回答)

n=25



どのような時に着けたいか

n=25

- 特定のイベントやボランティアに参加した時
- 限られたイベント
- 要支援者が多く来られそうなイベント参加時
- 多くの人が集まる所、駅、観光地など
- 多くの人が集まるようなイベント時